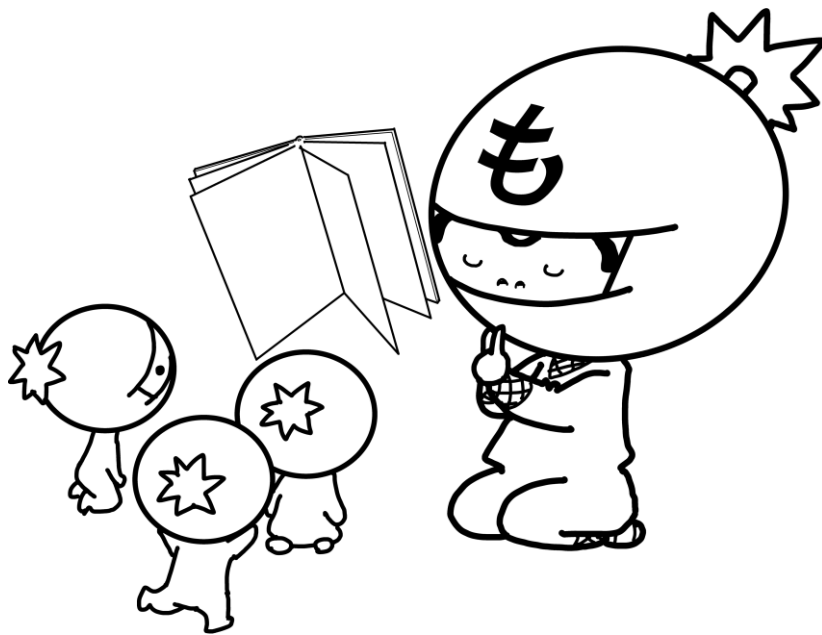


第二次日高村子ども読書活動推進計画
(令和元年度～令和5年度版)

本でつながる親子の絆と
地域で育む読書の輪
～地域ぐるみで読書推進の村づくり～



令和元年 12 月

日高村教育委員会

はじめに

日高村では、20年前となる平成11年に、村民の読書環境を整備するため村立図書館「コスモス文庫」が開館しました。「コスモス文庫」は開館以来、住民交流の場、子どもの居場所や学習支援ボランティアの拠点として地道な取り組みを続けてきました。また、平成21年には「日高村子ども読書活動推進計画」が策定され、様々な取り組みが進められてきました。そして、そのような中「日高読もう会」(図書館支援ボランティア団体)を中心として、読書活動の核となる村立図書館の建て替え(老朽化問題解決や規模の拡充を目的とする)を目指す動きが地域を巻き込んで起こり、平成28年、新村立図書館「ほしのおか」が建設されました。学校においても平成30年度から日高中学校が「学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業」指定校となるなど活発的に活動を続けております。

「読書」という活動は、子どもを内から育て励ます、成長過程において大切な要素の一つです。幼いころから行われるそれは、コミュニケーションをとる時間が取りづらくなっている現代の親子の絆の形成にも大変有意義なのはもちろんのこと、言葉を学び、感性をみがき、表現力を高め、想像力を豊かにし、共感力を高めるなど、生きる力を身に付けるうえで、欠くことのできないものです。

そして、読書活動が身近にあった子どもたちにとって、それは、学校教育を卒業し、社会人となってからも大いに役立つと考えられます。例えば彼らが悩んだときや新たな知識・技術などを身に付けたいとき、「読書」というものを自ら進んで行うことが身につけていけば、それは大きな力となり、また、励みとなることでしょう。なぜなら「読書」は、問題を解決し、自己を高め、ひいては人生の喜びにさえなり得るものだからです。

このように、人生をより豊かなものにできうるのが「読書」といえるでしょう。

しかし、今日の急速な情報通信手段の普及・多様化(テレビ、パソコン、携帯電話、スマートフォンやタブレット端末)や子どもの生活環境の変化などによる、子どもの「読書離れ」や「活字離れ」への影響が指摘されています。それに加え、このような高度情報化社会において、正確で必要な情報を自ら取捨選択していく力を身に付けるためにも、本の持つ力を最大限に生かした読書活動を推し進めていく必要があります。

つまり、子どもが読書の楽しさや大切さを知り、自ら「読書」に親しんでいけるよう、彼らの興味・関心を尊重しながら、その成長の段階に応じた様々な分野の本との出会いや「読書」の機会の充実を図っていくことはとても重要であり、ゆえに、この計画はとても意義深いものといえます。

この計画を推進していくためには、推進委員の皆様はもとより、家庭、地域(ボランティア)、保育園・学校、図書館などがそれぞれの立場から、村一体となり取り組んでいくことが必要であると考えます。

日高村の子どもたちがこれからの時代を自らの力で力強く生き抜き、自らの夢に向かってはばたく力を育み、課題に挑戦し、ひいては日高村、高知県や日本の未来を切り開く力を育てていく大人になりますよう、村民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和元年12月
日高村教育委員会
教育長 吉岡 優誠

目次

第1章 第二次日高村読書活動推進計画の策定にあたって	
計画策定の背景	1
(1)国の動き	1
(2)高知県の動き	1
(3)日高村の動き	2
第2章 第一次日高村読書活動推進計画の取り組みと課題	
1. 第一次計画における取り組み	3
2. 第一次計画における課題	3
第3章 第二次日高村読書活動推進計画の基本的な考え方	
1. 基本目標	4
2. 計画の連携図	4
3. 計画の期間	4
4. 対象となる年齢	4
第4章 第二次日高村読書活動推進のための具体的な取り組み	
1. 家庭における読書活動の推進	5
2. 地域(ボランティア)における読書活動の推進	6
3. 保育園における読書活動の推進	7
4. 学校における読書活動の推進	8
5. 村立図書館における読書活動の推進	9
資料	
・子どもの読書活動の推進に関する法律	
・国【第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の概要及び推進のための主な方策】	
・高知県【第三次計画における具体的な取組一覧】	
・高知県【子どもの成長・発達段階に応じた読書活動の主な取組】	
・日高村子ども読書活動推進計画策定委員名簿	

第1章 第二次日高村読書活動推進計画の策定にあたって

計画策定の背景

(1) 国の動き

国は、子どもの読書活動を「人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要である」、とし、平成13年(2001年)に「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)を定めました。そして、平成14年(2002年)に、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とする最初の「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」を定め、家庭、地域、学校等の連携・協力を重視した施策に取り組みました。その後、平成20年(2008年)には国の「第二次基本計画」が、平成25年(2013年)には国の「第三次基本計画」が、そして平成30年(2018年)には、

1. 発達段階に応じた取り組みにより、読書習慣を形成する
 2. 友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高める
- という二つのことをポイントにおいた、国の「第四次基本計画」が策定されました。

(2) 高知県の動き

高知県においては、平成18年(2006年)に「高知県子ども読書活動推進計画」が、平成23年(2011年)に、県の「第二次基本計画」が、平成29年(2017年)には県の「第三次計画」がそれぞれ策定され、取り組みが進められています。

県は第二次計画の基本目標として、

「高知県で育つすべての子どもの読書の習慣を定着させ、読書の質を高めることで、豊かな心と感性を醸成し、考える力や表現力を身に付けるとともに、人との絆を育んでいくことを目的として、次のことを目標として取り組みとします。」、とし、

- 子どもの発達段階に応じた自主的な読書活動へのいざない
 - あらゆる機会とあらゆる場所において読書ができる環境づくり
- を掲げました。また、県は第三次計画の基本目標として、
- 「第二次計画の考え方を継承しつつ、読書を取り巻く社会情勢の変化や今後重視すべき点をふまえ、次のことを目標として取り組みます」、とし、
- 自主的に読書活動に取り組む子どもを育てる。
(乳幼児期から発達段階に応じた読書活動の推進)
 - 情報を読み取り活用する子どもを育てる。
(情報の価値を見抜き、活用していく力を身に付ける)
 - あらゆる機会とあらゆる場所において読書ができる環境をつくる
(読書環境の充実・強化)

を掲げています。

(3)日高村の動き

本村では、国や県の計画を踏まえ、平成21年(2009年)に「日高村子ども読書活動推進計画」を策定し、子供たちの読書環境を整えるため、基本目標として、

- (1)自ら進んで読書する子どもを育てます
- (2)家庭・地域(ボランティア団体)・保育・学校と連携し、子供の読書環境の整備・充実に推進します
- (3)村立図書館と学校図書館の充実に図り、連携を図ります
- (4)子どもの読書活動に対する理解と関心を深めるため、啓発・広報の推進を図ります

という4つの項目を掲げました。そして、①家庭②地域(ボランティア団体)③保育園・学校④図書館それぞれの活動目標のもと、互いに連携し地域ぐるみで読書推進の村づくりを進めてきました。

その間、本村においては、平成26年(2014年)に日高村の生涯学習の拠点として村民一人一人の読書環境を整備するべく、「新日高村立図書館基本構想」(以下「基本構想」という。)が策定され、平成28年(2016年)に新日高村立図書館 愛称:「ほしのおか」が開館しました。「基本構想」では、令和元年度(2019年度)までに蔵書数 40,000 冊を目標とし、図書館や読書に親しんでもらえるよう、全世代へ向けたイベントや取組を行うなどして、魅力ある図書館づくりを続けています。

学校においては、「学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業」(県教育委員会による児童生徒の言語能力及び情報活用能力を育成するため、図書館資料及び新聞等の効果的な活用や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究に取り組むための事業)に日高中学校が指定を受けるなど、「たくましく心豊かな人づくり」という教育基本目標のもと、活発的に活動がなされています。

一方で、「日高村子ども読書活動推進計画」は達成すべき目標値の設定などが十分ではなかったというような課題がありました。

これを踏まえて、この度村教育委員会は平成21年に策定された「日高村子ども読書活動推進計画」を改訂し、令和元年(2019年)から令和5年(2024年)のおおむね5年間にわたる本村における今後5年間の子供の読書活動の総合的な推進を図るため、読書活動推進に関する基本方針を明らかにした「第二次日高村子ども読書活動推進計画」(このうち最初の1年間は第一次の振り返り作業とする)を策定するに至りました。

第2章 第一次日高村読書活動推進計画の取組と課題

1. 第一次計画における取組

●家庭

- ・親子読書の推進
- ・家庭で子どもが自発的に本に手を伸ばす環境づくり
- ・読み聞かせの意義や読書の楽しさについての啓発

●地域(ボランティア団体)

- ・保育園・学校への支援
- ・各ボランティア団体の連携・協力
- ・図書館支援による読書環境づくり
- ・家庭内読書の普及及び啓発

●保育園・学校

- ・絵本や言語等に親しむ取組
- ・読書指導推進体制の充実
- ・学校図書館の充実(蔵書及び人的環境整備)

●図書館

- ・村立図書館の充実(資料・施設)
- ・読書推進の研修・講座の開催
- ・保育園・学校への支援(団体貸出や施設利用等)
- ・ボランティア団体との相互連携・協力による読書環境づくり(資料取り寄せ)

2. 第一次計画における課題

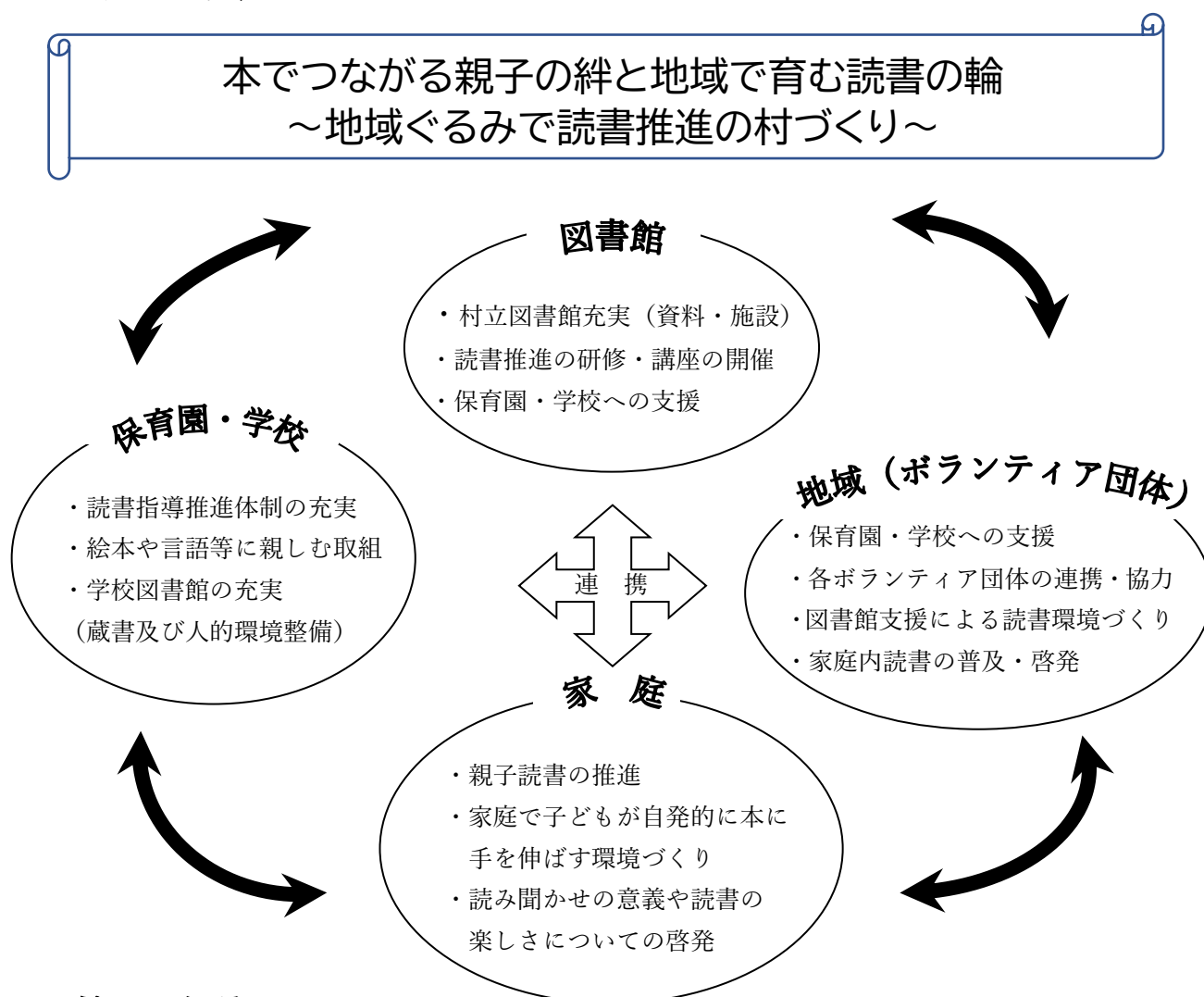
子供たちの読書習慣は、幼いころから家庭の中での読書体験を通じて身につくものであり、保護者に読書の意義や重要性を認識してもらう取り組みを、行政はもとより、地域(ボランティア)、保育園、学校や村立図書館などがそれぞれの立場から、啓発、周知やアドバイスに努めてきました。その甲斐あって、子育て世代の読み聞かせへの意識は高まってきました。しかし、自ら読書をする子はまだまだ少ないのが現状です。また、仕事に出ている親が多く、地域(ボランティア)に関しても子育て世代への興味をひくことが難しく、地域で開催される講座等への参加者も十分ではありません。ゆえに、課題としては、計画のさらなる周知及び地域を巻き込んだ読書活動推進、読み聞かせやストーリーテリングを行うボランティアの確保・養成、家庭等への読書活動の啓発、加えて具体的な数値目標の設定などが挙げられます。

第3章 第二次日高村読書活動推進計画の基本的な考え方

1. 基本目標(第一次を改訂)

- (1)自ら進んで読書する子どもを育てます。(発達段階に応じた取組を意識する)
- (2)家庭・地域・保育・学校と連携し、子どもの読書環境の整備・充実を推進します。
- (3) 村立図書館と学校図書館の充実及び連携を図ります
- (4)子どもの読書活動に対する理解と関心を深めるため、啓発・広報の推進を図ります。(友人同士で行える活動を意識する)

2. 計画の連携図



3. 計画の期間

令和元年度(2019年度)から令和5年度(2023年度)までの5年間とします。

4. 対象となる年齢

0歳から18歳までを対象とします。

第4章 第二次日高村読書活動推進計画推進のための具体的な取り組み

1 家庭における読書活動の意義と推進

「子どもの読書」には、一般にいう“読む”(ひとり、字で文字を追う読書)のほかに、誰かに読んでもらって内容を理解するという”耳からの読書“というものがあります。そのような読書は、乳幼児期の子どもに対してはもとより、言葉の獲得が一定できているけれど、まだ読めない、という年齢の子どもに対しても必要です。

本村では、乳幼児健診の時にブックスタートを行っており、絵本を子どもに読むことが、言葉を獲得し、想像力を培い、親子の触れ合いの時間(父や母の声で読んでもらうことでリラックス、愛着形成やコミュニケーションのスタートとなる)としていかに大切であるかを伝え、読み聞かせの実践や絵本のプレゼントなどを行っています。

保育園では、借りた本を毎週持ち帰り、家庭で読み聞かせをする取り組みが行われていますが、絵本を読んだ経験が少ない親や多忙な親が多いため、読み聞かせを身近に感じられなかったり、時間を充分にとれなかったりするのが現状です。

小学校低学年においても、聞いて楽しみ、本と身近になるような読書が必要とされ、読み聞かせが必要ですが、そのような認識がまだまだ薄く、字が読めるようになるとすぐひとり読書に移行しがちです。そして、成長するにつれ、インターネットやゲームなどに興味や関心が向き、読書に費やす時間は減少し、学年が上がるにつれ本を読まない傾向となっています。

強い心の体験や感情の起伏を伴った読書体験は心に深く刻まれ記憶されるものです。本を読んであげることが親子のスキンシップをはじめ、とても有効であることを引き続き理解してもらうことが重要です。

【具体的な取組】

- 行政、保育園、学校、PTA、子ども支援ボランティア等が連携し合いながら保護者や親子で参加できる読み聞かせ等の研修会や講座の実施を推進し、読み聞かせの意義や読書の楽しさについて啓発と理解を図ります。
- 親子読書の楽しさを伝えるため、子ども支援ボランティアの活動を積極的に支援します。そして、子育て世代に向けたボランティアの募集、育成と拡大を図ります。
- 乳幼児や小学生のいる家庭には、保育園、学校と子育て支援センター(ブックスタート事業)等を通じて「人に本を読んでもらう大切さ」等を伝え、家庭で「本とふれあう環境づくり」を促進し、親子読書の推進を図ります。
- 小・中学生のいる家庭には、参観日やPTA活動を通じて、保護者が本と親しむ機会を作るとともに、家庭で子どもが自発的に本に手を伸ばす環境づくりに向けて働きかけます。
- 読書の意義や重要性、楽しさ等を伝えるために、発達段階に応じたおすすめ図書リストを作成、配布し、子どもの読書の芽を育てるとともに、家庭への啓発を行います。

2 地域(ボランティア)における読書活動の意義と推進

本村では、読書に関わるボランティア団体(読み聞かせ、朗読活動や図書館支援など)の活発な活動により、保育園や小学校での継続的な読み聞かせが行われており、また、地域の子どもたちを対象とした朗読の練習及び、地域行事での朗読劇などの発表も毎年行われています。(発表する演目は、土佐弁で書かれた創作民話などもあります。)そのほか、図書館イベント時における活動(読み聞かせ、パネルシアターや人形劇などの実施)や、子どもと一緒にの図書館環境整備(花壇の花の植え替えなど)を実施するなど、子どもにとって図書館や本が身近で親しみやすいものとなるように、様々な角度からアプローチを行っています。

その他の活動としては、他の公共図書館視察、読み聞かせ講座への参加、図書館イベントへのスタッフとしての参加や館内環境整備などがあり、よりよい読書環境を推進するべく活動を継続しています。

一方、課題としては、若手会員が少なく、活動規模に制限が感じられる点です。これに関しては、中高生や子育て世代へのアプローチが必要です。具体的には、読書に関わるボランティア団体の活動や読み聞かせに興味をもってもらえるよう以下のように活動していきます。

- ①ボランティアの活動内容について、目で見てわかりやすく広報するよう努めます。
- ②読み聞かせボランティア養成講座など、一般向けの講座への参加を呼びかけ、読書環境の充実を目指します。
- ③図書館イベントへの参加を呼びかけ、図書館や本を読む空間を身近に感じてもらおうよう努めます。
- ④図書館ホームページにボランティアについての項目を作成し、これまでの活動や募集案内などを広報し、ボランティア活動が充実するよう働きかけます。

【具体的な取組】

- 学校と連携して読み聞かせ活動を継続し、読書活動が推進するよう支援します。
- 図書館と連携して読み聞かせを実施するなど、読書の楽しさを知るきっかけ作りを支援します。
- 各ボランティア団体の連携・協力を図り、取り組みについての情報収集や提供に努めます。
- 地域の歴史、伝承などの情報を共有し、そこで語られた内容や提示された資料をまとめ、図書館の資料として子どもたちに活用されるように努めます。
- 子どもたちが、地域の民話について現地学習・取材をし、日高の言葉で日高の民話を語り発表するなど、地域住民にとっても地域の歴史や伝承を再認識することができるような活動を支援します。
- 図書館と連携し、図書館資料の修繕、館内整備や花壇の植え替えなど、図書館に対する支援活動を継続します。

3 保育園における読書活動の意義と推進

子どもにとって絵本は「楽しみ」であり心を満足させてくれるものです。生涯にわたって本に親しみ、人が人らしく生き、社会の一員として周りの人とうまくかかわりを持って暮らしていくための大事な素地作りの時期にいるこの年齢の子どもたちに対し、絵本の持つ力を最大限に活かした読書活動を推し進めていくため、保育園では日常保育の中で年齢に応じて絵本の読み聞かせを毎日行っています。

読み聞かせというものは、月齢、年齢や年代によって、その時々が発育に合った適当な本を選ぶ必要があります。例えば大きく言って「乳児」にとって、絵本はまだおもちの一つであり、見たり、触ったり、あるいは口に持って行ったりしますが、月齢が上がるにつれて繰り返し保育者に読んでもらうことにより、絵を見て楽しんだり、喜びや安心感を持つことができるようになります。

幼児期になると、絵本に対してさらに関心が広がり、おはなしを楽しんだり想像したり、また、友達同士で一緒に見たりと、他人と何かを共有するという感覚を味わい、そこからいろいろな遊びが広がり、おはなしの世界にどっぷり使って楽しむようになります。このようにして、発育と共に言葉の数が増え、表現が豊かになっていきます。

このような経験を子どもたちがしながら成長できるように、保育園では子どもたちの手の届くところにいつも絵本があり、自由に取り出せる環境づくりを進めています。そして、子どもの動線(本棚やテーブルの配置)や、静かな場所作りに気を付けています。また、家庭への貸出を実施し、「親子読書」の習慣づけを行っています。そのほか、ボランティアによる読み聞かせの実施や村立図書館への園外学習などを実施するなど、図書館員やボランティア等と連携協力してさまざまな文化活動に触れる機会を図っています。

【具体的な取組】

- 絵本の読み聞かせを行い、子どもたちが絵本に興味を持ち親しむ機会を多く作り、おはなしの展開の面白さや楽しさを知ってもらい、喜びを共有していきます。
- 子ども自らが好きな本をとって親しみ、落ち着いてみる事ができる絵本コーナーの充実を図ります。
- 生活や季節、子どもの発達や興味、関心に応じた絵本や知識絵本についても整備し、様々な角度から発達を促します。
- 保育計画や指導計画の中に、絵本や言語等に親しむ活動を位置づけ、計画的に取り組んでいきます。
- 保育者がいろいろな絵本に親しみ読書の楽しさを知るために、読書活動の重要性や読み聞かせについての研修等の充実を図ります。
- 保護者に対しては、子どもと一緒に絵本を読むことの楽しさや意義を話し、絵本の貸出を促進し、懇談会や講演会等で読書活動の重要性を伝えていきます。
- 子どもたちが他者と交流する機会ともなるボランティアによる読み聞かせを継続していきます。

4 学校における読書活動の意義と推進

村内小中学校においては、読書推進活動の普及により、すべての学校で始業前に読書の時間を設けています。また、外部からの講師やボランティアによる読み聞かせなどの導入もあり、子どもたちが本を読んだり、読書の楽しさに触れたりする機会があります。

学校図書館に関して、国は、「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、①児童生徒の読書活動や児童生徒の読書指導の場である「読書センター」としての機能、②児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、③情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。」としています。村内学校図書館の蔵書は、徐々に増えていますが、館内資料・館内環境の整備などは継続して進めていく必要があります。教材に関わる関連図書は村立図書館と連携し、児童生徒の手元に届くよう努めていますが、司書教諭や学校司書の配置など、人的環境整備も急がれます。

【具体的な取組】

- 教職員の共通理解のもと、全校で読書指導体制の充実を目指すよう働きかけます。（全校一斉の読書時間の確保や読書指導計画等の作成）
- 学校図書館の利用を中心とした学習活動や読書指導の推進体制が充実するよう働きかけます。
- 学校図書館の蔵書の充実とともに、司書教諭や学校司書等の人的環境整備の充実を目指します。
- 村立図書館との連携を強化し、学校図書館の運営及び環境整備の充実を目指します。
- ボランティアの導入により、地域の人材との連携を強化し、地域ぐるみで学校図書館を中心とした子どもの読書環境充実を目指します。

学校名	蔵書数	標準冊数 ^{※1}	達成状況
日下小学校	5,371	6,520	82.3%
能津小学校	4,485	4,040	111.0%
日高中学校	7,039	6,720	104.7%
加茂小学校	5,595	6,040	92.6%
加茂中学校	5,200	5,440	95.5%

（平成30年3月時点）

※1 学校図書館図書標準

5 村立図書館における読書活動の意義と推進

図書館は、子どもの読書推進活動の中核となる施設といえます。なぜなら、読書をすべての人に勧め、その意義を実感してもらい、読む本を無償で保証する社会的な仕組みが公立図書館のシステムであり、読書が生きていくうえで有益な文化活動であることを深く認識しているのが図書館職員だからです。

地域教育推進協議会の提言等を受け、旧日下保育園舎を改築し開館した村立図書館は、その後図書館支援ボランティアを中心に進められた運動の結果、愛称を「ほしのおか」とする新図書館が開館しました。

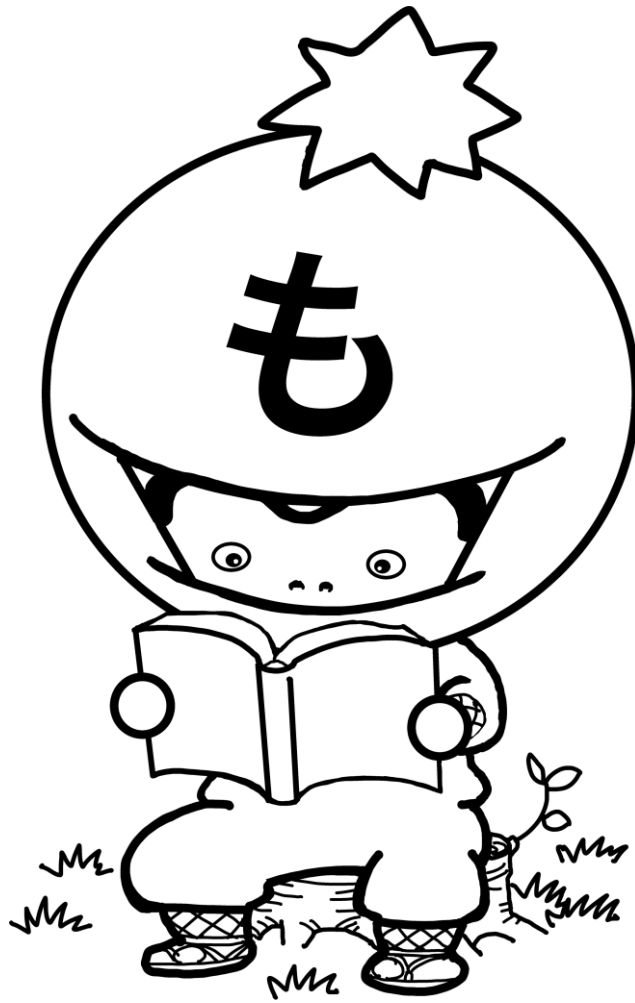
この愛称が表す、日高村の5地区すべての頭文字には、そこに暮らす全ての子どもたちが、この図書館での経験を通して、自分の感性と知性の両面から精神を鍛え、未来へと輝く「ほし」となってもらいたいというもう一つの意味が込められています。

現在図書館では、幅広い年齢に応じた良質で多様な本の収集・提供に努め、その他、ボランティア団体の協力を得ながら、イベントの開催、読み聞かせやボランティア養成講座などを開催しています。また、村内小学校へは毎月、団体貸出を実施し、小学生へ向けた案内として「図書館だより」を配布しています。

課題としては、来館者数に対する資料貸出人数が低いこと(2018年度、0歳から15歳における来館者数に対する貸出人数の割合は35%)や中学・高校生の図書館来館者数が低いことなどが挙げられます。特に高校生は子どもの利用率を全体としてみた場合、利用率が過去10年間いずれの年も10%以下となっており、村立図書館として今後もさらに効果的な取り組みを模索していく必要があります。

【具体的な取組】

- 子育て支援センターなどとの連携を深め、家庭における読書環境がより整えられるよう努めます。
- あらゆる子どもに対する読書環境の充実のため、学校との連携を深め、学校からの要望等に応じてオーテピア高知図書館等の協力を得たりしながら図書 の団体貸出、本の紹介や学校図書館への助言等を行います。
- 図書館支援ボランティアの事務局として地域との連携を深め、積極的かつ円滑に活動していけるよう努めます。
- 定期的に蔵書を整理し、すべての本が十分に利用してもらえるよう努めます。
- 展示や案内を工夫し、一冊一冊の本の魅力が効果的に伝わるよう図ります。
- カウンターでの利用時のやり取りを通して、子どもたちのニーズを知り、関心に見合った本を紹介することで、読みたい本に出会えるよう努めます。
- 本を読むことの少ない子どもに対し、イベントを企画するなどし、本に親しむきっかけづくりに努めます。
- 図書館職員を対象とした研修、講座に積極的に参加し、能力向上を図り、子どもの読書活動支援のためのサービスの向上に努めます。
- HP等の広報の仕方を工夫し、より簡単に図書館の情報が得られるよう努めます。



第二次日高村子ども読書活動推進計画

令和元年(2019年)12月

編集・発行 日高村教育委員会
〒781-2194 高知県高岡郡日高村本郷 61-1
TEL:0889-24-5115 FAX:0889-20-1572